

## 第2回総合部会（H22.4.26）の意見概要

### 1 基本理念について

**（結論）**

- ・基本理念を置くことについては了解するが、「協創と貢献」については賛否様々な意見があるので、ひとまずこれを大事にしながら、副題や目指す姿の内容をよく吟味し、その上で「協創と貢献」を掲げるのか、あるいは単語ではなく文章として示すかについては引き続き検討を行うこととする。

**（主な意見）**

- ・「協創」という言葉は、協力して創造する、また、協力して個々の創造力を高めるという意味があり、大変良い。一方、「貢献」は、漠然として分かりにくいのが、県の姿勢として、日本全体に対する貢献という強い意思を表しており賛同する。
- ・基本理念には賛成だが、「協創」という言葉は、受け取る側から見ると、何を言っているのか分からない。「協創」より「共創」の方が良い。
- ・「貢献」は、主体的に何か寄与するという意味に取ってもらえばいいが、何かをしなさい、という要求に取られるとまずいのではないか。
- ・体言止めではなく散文的なキャッチフレーズとして取り入れたほうが良い。
- ・理念は普遍的なもので、時代の変化で大きく変わるものではない。

### 2 3つの目標と将来像について

**（結論）**

- ・自分らしさや生きがいなど、質そのものを目指す社会のあり様を反映した端的な表現となるように磨き上げていくこととする。

**（主な意見）**

- ・「快適に暮らせる県」や「豊かな暮らし」という将来像の表現は、物質的な豊かさを追求する20世紀型の価値観が残っており、表現の検討が必要。
- ・内容は賛成だが、全体として文章が長いので、言いたいことを端的に示すべき。

### 3 基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクトについて

**（結論）**

- ・基本戦略には、一つひとつの戦略が独立するのではなく部局横断的な取り組みが必要。
- ・いばらきモデル推進プロジェクトについては、各専門部会において、新しい項目を含めて検討してもらうこととする。部会の審議範囲を超えて出しても良いこととする。

**（主な意見）**

- ・基本戦略には、部局横断的な取り組みが必要であり、その上でプロジェクトによる横串が入れば、魅力的な構造になる。
- ・基本戦略は、3つの目標で分かれていながらもどこかでつながっている概念を示したらどうか。
- ・若い人を育てていくという視点が、どのプロジェクトに入るのか分からない。単なる例示なら、もう少し時間をかけて検討し、漏れなどの無いようにすべき。

## 第2回各専門部会の意見概要（総括）

### 1 開催状況

部 会 名	日 時
住みよいいばらきづくり専門部会	5月20日（木）14:00～16:00
活力あるいばらきづくり専門部会	5月25日（火）10:00～12:00
人が輝くいばらきづくり専門部会	5月27日（木）14:00～16:00

### 2 主な意見

#### （1）基本構想について

部会	主 な 意 見
住み よい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念の「協創と貢献」は、国の「新しい公共」の議論を参酌して計画に反映してほしい。</li> <li>・将来像にある「誰もが」の対象に、外国籍の県民を含めることについて意識することを望む。</li> </ul>
活力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協創と貢献」は方法論であり、将来の姿が見えるような出来上がりのイメージが必要。</li> <li>・全体的に穏やかで優しいイメージ。今後の日本を考えるともっと危機感のあるものにすべき。</li> <li>・茨城の特性や茨城でなければいけないといった独自性など、茨城らしさが見えてこない。</li> </ul>
人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協創と貢献」は漢字の画数が多く堅いイメージで、貢献は誰に貢献するのかがわかりにくい。</li> <li>・将来像に受け身の内容が多い。県民として地域を盛りたてて活気ある地域にするフレーズが良い。</li> </ul>

#### （2）基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクトについて

部会	主 な 意 見
住み よい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「協創と貢献」の理念を施策の中に入れ込んでいくことが重要。</li> <li>・現行計画で不十分な施策に力を入れ、メリハリを付けた計画づくりが重要。</li> <li>・危機管理や医療圏を踏まえ、隣接他県との連携を考えるべき。</li> <li>・計画の推進には、今ある資源を有効活用し、各主体の役割を明確にすることが必要。</li> <li>・人ととのつながりという視点が弱い。共生といった概念の打ち出しについて検討を願う。</li> </ul>
活力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内で茨城の強みを伸ばすとともに、国際戦略に打ってでることが必要。</li> <li>・生産主導の時代と決別し、消費や市場のニーズを組み込んで新産業の発展まで視野を広げていくというメッセージが感じられる表現が施策に必要。</li> <li>・イノベーションを社会化・商品化するプロジェクトは可能性がある。</li> <li>・イメージアップに関するプロジェクトは、観光、物産に限定することなく実施してほしい。</li> </ul>
人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の教育力向上を図るには、親が働く企業や職場にも協力を求めるべき。</li> <li>・若者を育てる視点と心のケアについての施策が必要。</li> <li>・グローバルな人材育成には語学力の向上が喫緊の課題。</li> <li>・プロジェクトに、茨城の強みである科学技術や環境を取り上げては。</li> </ul>

## Ⅱ－1 第2回住みよいいばらきづくり専門部会（H22.5.20）

### 1. 基本構想について

項目	主な意見
時代の潮流	・時代の潮流でのグローバル化の対応に、「もの」や「情報」と併せて「人」も含めて考えるべき。
基本理念 (目指す姿)	・「協創」は、協力して創るので、各主体が何をすべきか明確にすべき。
	・「協創と貢献」は、国の「新しい公共」の議論を参酌して計画に反映すべき。
	・「誰もが」の対象に外国籍の市民も含めて欲しい。

### 2. 基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクトについて

項目	主な意見
全 体	・「協創と貢献」の理念を意識して、基本戦略の施策をつくり込むべき。
	・網羅的な計画は、メリハリを付けた計画づくりが必要。
	・超短期・短期・中期・長期と時間軸で構想を練り、5年に1度の改定時に臨機応変に変えるところは変える対応をするべき。
	・危機管理や医療圏を踏まえ、隣接他県との連携を考えるべき。
	・基本戦略の名称すべてに戦略とあり、くどい。
住みよいいばらきに関する基本戦略全体	・「住みよいいばらきづくり」の柱立てが現行計画は5本で、今回は4本だが、現行計画のほうがわかりやすい。
充実した医療と保健福祉による生活安心戦略	・障害者当事者の意見を聞いて、戦略や施策を考えるべき。
	・居住する市町村に子どもが産める医療施設がないのは問題。
	・「若者に対する結婚・子育てなど意識の啓発」とあるが、もっと希望や夢がもてる表現や積極的な情報提供など、前向きな表現にすべき。
	・若い女性に結婚しないが子どもを設ける人が増えているのは問題。
県民の安全で平穏なくらしを守る戦略	・「災害時における通信手段の確保と迅速な情報の提供」では、一方通行の情報提供ではなく情報の共有化が必要。
	・防災対策を見直す際は、県が地震の知見を含めた県全体の災害の評価を行い、市町村や事業主体は、県の評価に個別評価を加えて、情報の共有化を図る仕組みづくりが必要。
	・災害時の入院情報の開示と個人情報の守秘など、具体的な事態を想定した施策展開が必要。
	・商品トラブルの試験を国民生活センターに委託するならば、迅速かつ的確な情報の共有化をすべき。
	・都市計画や環境設計する際、防犯の視点も検討すべき。
	・犯罪被害者への支援だけではなく、もっと広い被害者支援として柱立てすべき。
	・薬物乱用者やその家族の救済も検討して欲しい。
	・自殺対策と併せて自殺者の家族への支援もすべき。

項目	主な意見
みんなで取り組む地球にやさしい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「筑波山や霞ヶ浦などの自然環境や美しい景観の保全」の「美しい」という表現は要らない。</li> </ul>
人にやさしい良好な生活環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の計画では、人と人との関係について見えてこない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活環境や公共交通だけでなく、もっと人に関するコミュニティを強く打ち出すべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人が市民として成長していくような積極的な多文化共生社会づくりが必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOや地縁団体など地域社会活動に県はもっと積極的に支援するべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「水質検査の強化」とあるが、実効性に疑問。</li> <li>・昔の古いものを大切に残し使うまちづくりも必要。</li> </ul>
人が輝く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人（多文化共生）について入れるべき。</li> <li>・介護の担い手の確保・育成について入れて欲しい。</li> </ul>
活力ある	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITを活用した情報交流社会づくりに危機管理や防災担当部局との連携体制を。</li> </ul>
プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の科学技術の粋が集まったつくばなどを利用した産業化や製品化のプロジェクトを強烈に進めるべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物の加工や商品化も具体的に取り上げるべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の人材確保には外国人による介護が必要で「いばらき型EPA構想」を提案する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人について、「住みよい」では福祉的な内容を、「人が輝く」では夢や希望が持てコミュニティと一緒に貢献できる存在のプロジェクトを望む。</li> </ul>

## Ⅱ－２ 第２回活力あるいばらきづくり専門部会（H22.5.25）

### 1. 基本構想について

項目	主な意見
基本理念 (目指す姿)	・「協創と貢献」は方法論であり、将来の姿が見えるような出来上りをイメージできることが必要ではないか。
	・理念の表現の仕方として、標語形式でなく文章で書き表す方法もあるのではないか
	・理念を構成する1つ1つの言葉としてはよいが、「協創と貢献」という言葉でまとめることが良いのかは疑問。
	・全体的に穏やかで優しいイメージ。今後の日本を考えるともっと危機感のあるものにすべき
	・茨城の特性や茨城でなければいけないといった独自性など、茨城らしさが見えてこない。
将来像	・「人が輝くいばらき」については、基礎としての部分もあるが、活力や住みよ実を實現し人が輝くに到達するという意味で、人が輝くを上配置するという考え方もあるのではないか。

### 2. 基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクトについて

項目	主な意見
全体	・国内で茨城の強みを伸ばすとともに、国際戦略に打ってでることが必要。
	・生産主導の時代から消費や市場のニーズを組み込み新産業の発展まで視点を広げた施策展開を行っていくというメッセージが感じられる表現が必要。
	・「世界に貢献する科学技術」と「国際競争力ある産業」との表現は、大手企業の発想。中小企業は国内競争を勝ち抜くだけで精一杯である。
世界に貢献する科学技術 創造立県戦略	・「世界に貢献する」とあるが、まずは世界で活躍すべき。
	・国内外からさらに研究機関・機能呼び込むことを強化することが必要
国際競争力ある産業と生活環境を豊かにする産業づくり戦略	・イノベーションなど新しいものを創造するキーワードが必要。
日本の食を支える食料供給基地づくり戦略	・農業については、消費者だけでなく、実需者の視点も必要。
	・食料の供給だけでなく、加工も含めた付加価値の向上が必要。
	・森林、農地、湖沼・河川、海は一体的につながっており、農林水産業全体が環境とは密接に関係している点を考慮すべき。
世界と日本をつなぐ一大交流拠点づくり戦略	・世界と日本のつながりを考えていく上で、アジア抜きでは世界とつながらない。表現としては、日本を世界・アジアをつなぐとすべき。
	・日本の中での茨城、世界の中での茨城について、「in」と「out」の2wayを考えていかなければならない。

項目	主な意見
プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアとの関係をどう考えるかが重要であり、国内出張・旅行の感覚でアジアへ行けるビジネスモデルやツーリズムをどう作っていくのか考えておくべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イノベーションを社会化・商品化するプロジェクトは可能性がある。 (ex スマートグリッド, IT を活用した地域医療など)。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学では、10年後を見据えた研究に取り組んでいるが、研究成果を実践するフィールドを持つ自治体や企業・団体との連携が大切。「学」を活用して、具体的な施策を打ち出していくべき。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくり産業について、環境問題や高齢化が進行する中で、快適な生活に向けて茨城でモデルを作り、事業化して海外に売り出していくことが考えられる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城には、他の地域で失われた地域コミュニティや独自の産業が残っており、10年、20年先を見据え、オープンにするものと、日本・茨城でしっかり守っていくべきものを整理するなど長期の視点が必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策横断的な戦略的プロジェクトの展開により、茨城が日本や世界をリードし憧れられる地域になっていくものと考えており、それは、憧れられるライフスタイルを実現することと考えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージアップは観光や物産に限定することなく、企業が立地したいと思えるような都市地域のイメージアップも必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城らしさについて特化できないのが特徴で、それは、景気弾力性に強く多様なハイブリットな産業構造を持っていることであり、東京圏と地方の間で独自の魅力を創造するといったメッセージを発信していくことが必要</li> </ul>

### 3. 基本施策

項目	主な意見
世界に貢献する科学技術創造立県戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究機関の連携・ネットワーク化による成果の「見える化」が必要</li> <li>・研究開発環境としてインターナショナルスクールの整備など研究者をサポートするソフト機能の充実が重要。</li> </ul>
国際競争力ある産業と生活環境を豊かにする産業づくり戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業の海外進出への支援では、商社など現地で顧客を開拓できる機能をもった組織と連携していくべき。</li> <li>・大手企業退職者と県内企業とのマッチングに関する施策が重要</li> <li>・茨城県への進出企業に対し人材供給やインフラ整備といった企業活動における課題へのフォローアップが重要であり、企業の定着を図る上でのポイント。</li> <li>・職業訓練に加え、労働者の働く意欲を喚起していくことが必要。</li> <li>・若者の就労意欲が減退しており、若年層における労働力育成が必要。</li> <li>・企業では即戦力となる人材を求めており労働者の技術力の向上への支援が必要</li> <li>・技術をビジネスにつなげ、プロデュースできる人材の育成が重要。</li> <li>・日本のものづくり産業の国際競争力を保つためには、優良な技能で対抗していくことが必須であり、技能面での人材育成が必要。</li> <li>・テレワークなど柔軟な就業環境を実現することで、子育てしやすい環境と母親の社会とのつながりの実現と高齢者や障害者にも就労しやすい環境が実現できる。</li> </ul>
日本の食を支える食料供給基地づくり戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者ばかりではなく、加工・販売など新しい起業家への支援も必要。</li> <li>・茨城の森林は、人工林の割合が高く木材生産の森林資源が充実していること、平坦地が多く生産コストが高くないこと、大きな木材消費地である首都圏に近接していることなどの利点を活かした施策展開が必要。</li> <li>・持続的な森林資源の維持管理を図るうえでは、間伐ばかりではなく主伐が必要。</li> </ul>

## Ⅱ－3 第2回人が輝くいばらきづくり専門部会からの意見

1. 「全体の構成」については特に異論はない。総合部会に一任したい。

2. 「基本構想」の概要について

- (1) 「基本理念」の「協創と貢献」に関する部分については、「共に協力し合い、日本や世界に誇れるものを創る」という趣旨のものがくることを希望するが、詳細は総合部会に一任したい。
- (2) 「基本理念」の「目指す姿」については、概ね原案に賛成であるが、もう少し「若い人を育てる」という意味のことを入れた方がいいのではないかと。また、文章をもう少し簡潔にできるのではないかと。例えば次のようなものではどうか。

### 【目指す姿】

- 未来を担う人が育ち、一人一人が社会の中で活躍できる県
- お互いに人のやさしさを感じ、安心して住むことができる県
- 時代を切り開くモデルを創造し、日本と世界に貢献できる県

(3) 「3つの目標と目指すべき将来像」については、全体に書き方の様式や文章の雰囲気（項目数や説明の具体性の度合など）そろえる必要があるのではないかと。

- ・例えば、【活力あるいばらき】の標語は、他のものの雰囲気に合わせて、「先進的な産業の活動や人やものの交流が盛んな」というようなものにしてはどうか（他のものと比べて具体的過ぎる）。
- ・【住みよいいばらき】の「将来像」については受身のものが多い。自分達で活気のある住みよい地域にしていこうという視点があるべきではないかと。
- ・「人が輝くいばらき」の「将来像」については、文章の雰囲気がかなり不揃いである。例えば、次のようにしてはどうか。
  - 誰もが個性や能力を伸ばすとともに、地域が協力して次の世代を育む県
  - 誰もが郷土の文化を大切にしながら、健康で明るく豊かな生活を送る県
  - 誰もが個性や能力を活用して社会で活躍し、地域づくりの主役となっている県

- ・表題の「3つの目標と目指すべき将来像」は、「目標と将来像」でいいのではないかと。

3. 「基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクト」について

(1) 「基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクト」にくる内容は、次の4種類のものによるべきなのだろう。

現計画からの宿題となるもの

時代の潮流に応えるもの

諮問説明で強調されている「心や生活の重視」「量よりも質」を反映するもの

普遍性をもって重視されるべきもの

原案の記述はどのような観点のものかはっきりしない感じがする。全体的に内容や記述を再考する必要があるのではないかと。例えば、「第1部第1章1時代の潮流」で「少子高齢化」が強調されているが、「基本戦略」はそれへの対応を感じさせる内容になっていないのではないかと。

(2) 「基本戦略」は、全体の雰囲気が3つの目標ごとに独立的な計画を実施していくという感じになっている。包括的な計画についてはこのような雰囲気にならない記述にし、横断的連携が見えるものにする必要があるのではないかと。

- ・全体の構成について、わかりやすい図説を用いてはどうか。

(3) 当部会では原案にとらわれず、「基本戦略及びいばらきモデル推進プロジェクト」でどのような内容を置くべきか、フリートリーキング的な検討を行った。そのときの主なものを以下に列挙したい。

(a) 全体的な意見・戦略の名称等に関する意見

- ・全体的に、「IT」の利用を積極的に考えるべきである。
- ・全体的に、NPOの活用を考えるべきである。
- ・「量から質へ」と言われているが、質の意味をもう少し吟味した方がいいのではないか。
- ・「地域が一体」、「県民の理解の深化」といった、県民へのメッセージが重要である。
- ・「自己実現」より「自己肯定感」を持つことが、年代に応じた「輝き」につながる。
- ・基本理念が漢字で硬いイメージである一方、戦略には海外から入った言葉をそのまま片仮名で使っている言葉があり、バランスが悪い。
- ・プロジェクトには、科学技術や環境など茨城県に強みのあるものを具体的に入れるべきである。

(b) 「人が輝くいばらき」に係わる意見

- ・ 子供を育てやすい環境や仕組みをつくる（働く女性への支援、子育て相談システムの整備、地域コミュニティの整備、保育施設の整備、安心して学校に通わせられるシステムの整備等）
- ・ 各層の働く場や支援の仕組みをつくる（高齢者の活用、若者の仕事・ネットワーク構築支援、ノーマライゼーション社会の構築、働く女性への支援、継続的な子どもの心のケア、引きこもりへの支援、ITの活用、NPOなどの活用等）
- ・ こどもたちの基礎力を向上させる（読み書きなどの基礎学力の向上、意欲を啓発するモデル作り、職業倫理観を踏まえたキャリア教育の充実、教員の資質向上、家庭・企業・地域との連携、文化活動の活発化等）
- ・ コミュニティーを活性化させる（里山等自然の活用、歴史・芸術・文化の活用、環境関連との連携、農業関係との連携、過疎地の振興、郊外でのコミュニティの形成、都市部のコミュニティ化、観光関係との連携等）
- ・ 国際化に対応する教育や文化活動を充実する（語学力の向上、多文化理解の教育、幅広いグローバル人材の育成、観光関係との連携、国際交流の支援、学校における関係授業の充実、アジアを中心とした海外とのつきあい・茨城のPRの仕組み等）

(c) 他の部会にも係わる意見

- ・ 持続可能な社会の構築を目指す総合的な取組(循環型社会システムの構築、自然の保全、過疎地の振興、環境教育の充実等)
- ・ 観光に関する産業振興とサービスシステムの整備（空港への交通の整備、観光スポットの整備、PRシステムの整備、ITの活用、NPOなどの活用等）
- ・ 科学技術立国に必要な総合的な取組(先端産業の振興、理系人材の育成、理系教育の充実、大学との連携、高能力の高齢者の参加等)